

神谷 直亮

今年で43回を迎えた「日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード」の贈賞式が、9月14日に「ITSCOM スタジオ&ホール 二子玉川ライズ」(東京・世田谷区)で開催された。また、翌日の15日には、「コンテンツスタジアム」と名付けた入賞作品をめぐる審査員と会場の関係者による意見交換会が行われ賑わった。

「未来へ、地域とともに・・・」をテーマに掲げた今回の番組アワードのプログラムは、コンペティション部門、コミュニティ部門、4K部門で構成されていた。

まず、全国で最も優れた映像コンテンツを目指して競うコンペティション部門では全部で63作品の応募があり、これらの中から受賞作品として紹介されたのは下記9作品であった。

- ・「品川に生きる(ケーブルテレビ品川開局20周年記念番組)」(制作:東京・ケーブルテレビ品川)
- ・「佐倉が生んだ女子教育の先駆者 佐藤志津〜女子美術大学の再興とその精神」(制作:千葉・広域高速ネット二九六)
- ・「ブラインド シンクロクラブ〜いつか白鳥になる〜」(制作:神奈川・横浜ケーブルビジョン)
- ・「3年1組 ロド先生」(制作:愛知・ひまわりネットワーク)

- ・「幸福のカタチ」(制作:福井・丹南ケーブルテレビ)
- ・「米子が生んだ心の経済学者〜宇沢弘文が遺したもの〜」(制作:鳥取・中海テレビ放送)
- ・「やまぐちひわだで伝統を継ぐ」(制作:山口・山口ケーブルビジョン)
- ・「病院は何処へ 地域医療を考える」(制作:佐賀・伊万里ケーブルテレビジョン)
- ・「天高く三頭の龍が舞う町〜長崎くんち筑後町龍舞〜」(制作:長崎・長崎ケーブルメディア)

上記受賞作品からコンペティション部門審査員特別賞に選ばれたのは、「米子が生んだ心の経済学者〜宇沢弘文が遺したもの〜」であった。若かりし頃、米子で過ごした世界的な経済学者の足跡をたどりながら、関係者の証言や資料を基に人間尊重の思想的背景を浮き彫りにした秀作と評価された。「佐倉が生んだ女子教育の先駆者 佐藤志津」も同じような発想で制作されているが、宇沢弘文のスケールの大きさが上回ったようだ。

次いで、地域に密着したケーブルテレビ局ならではの映像コンテンツを競うコミュニティ部門に関しては、108を数える多くの作品が集まったという。これらの中から、今回披露された代表作は、下記9作品であ

った。

- ・「防災番組 あの日からの私たち〜船橋・習志野・八千代〜」(制作:千葉・ジェイコム船橋習志野)
- ・「三条市立三条小学校〜144年のありがとう〜」(制作:新潟・エヌ・シー・ティ)
- ・「世間遺産〜美浜町古布 後編〜」(制作:愛知・知多半島ケーブルネットワーク)
- ・「思いを伝えよう心の詩コンクール10周年記念特別番組」(制作:岐阜・大垣ケーブルテレビ)
- ・「さくらとあゆ〜アンコール特別編〜前編〜」(制作:岡山・吉備ケーブルテレビ)
- ・「週間スポーツハイライト」(制作:長崎・練早ケーブルテレビ)
- ・「ながさき原爆記録全集〜アメリカ戦略爆撃調査団編総集編〜」(制作:長崎・長崎ケーブルメディア)
- ・「お茶の間情報局 でげテレ」(制作:宮崎・宮崎ケーブルテレビ)
- ・「市民が創り上げた天下一」(制作:宮崎・ケーブルメディアワイワイ)

上記9作品の中から審査員によるコミュニティ部門特別賞が選定され、「さくらとあゆ」が受賞の栄誉に浴した。人口流出、高齢化が進む備中の小京都「高梁(たかはし)」で、主人公のさくらが結婚、子育てをしながら温かい家庭を築いていく物語を、100人の市民のキャストやボランティアの参加を得て完成させたというまさにコミュニティ番組にふさわしい作品である。

さらに、今年で第2回目となる注目の4K部門には、全部で20作品の応募があったという。この中から「おんばしら 山出し篇」(制作:長野・エルシーブイ)が4K大賞を受賞した。その他、「山のしあわせごはん〜健康長寿の里・信州高山村〜」(制作:長野・須高ケーブルテレビ)が映像表現賞を受賞し、下記3作品が技術賞に輝い



写真1 「日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード」の贈賞式は、今年もITSCOM スタジオ&ホール 二子玉川ライズで開催された。



写真2 4K部門の4K大賞には、エルシーブイが制作した「おんばしら 山出し篇」が選ばれた。



写真3 今回、グランプリ総務大臣賞を受賞したのは、「ながさき原爆記録全集〜アメリカ戦略爆撃調査団編総集編〜」(制作:長崎・長崎ケーブルメディア)であった。



写真4 グランプリ総務大臣賞を受賞した長崎ケーブルメディアの大野陽一郎放送部長には、野田総務大臣から壇上で直接トロフィーが贈与された。



写真5 「番組アワード」終了後、関係者を囲んで記念撮影が行われた。(向かって左から2番目が準グランプリを獲得した伊万里ケーブルテレビジョン、同3番目がグランプリの栄誉に輝いた長崎ケーブルメディアの代表)

た。

- ・「NAGASAKI 水中散歩〜タツノオトシゴと鮎〜」(制作:長崎・長崎ケーブルメディア)
- ・「世界農業遺産〜高千穂郷・椎葉山地域〜」(制作:宮崎・ケーブルメディアワイワイ)
- ・「愛知の祭りを世界に」(3社共同制作:愛知・キャッチネットワーク、中部ケーブルネットワーク、西尾張シーエーティーヴィ)

ひとしきりプレゼンテーションが終わった後の休憩時間に、長崎ケーブルメディアの制作スタッフと歓談する機会があったので、使用したカメラとハウジングのメーカーを問い合わせたところ「4Kカメラは、ソニーのFDR-AX100ハンディカムとFDR-X3000Rアクションカムを駆使した。水中カメラのハウジングは、シリオン社製を採用した」との回答であった。

上記3部門の作品の紹介と表彰式の後、注目のグランプリ総務大臣賞、準グランプリの発表が行われ、最も注目を集めたグランプリ総務大臣賞には、コミュニティ部門から「ながさき原爆記録全集〜アメリカ戦略爆撃調査団編総集編〜」が選ばれた。また、準グランプリ賞に輝いたのは、「病院は何処へ 地域医療を考える」であった。グランプリは長崎、準グランプリは佐賀と共に九州のケーブル局が賞を独占するという興味深い結果となった。

この後、野田聖子総務大臣から長崎ケーブルメディアの大野陽一郎放送部長に、壇

上でグランプリ総務大臣賞のトロフィーが贈与された。お祝いの言葉の後、野田大臣が「全国のケーブルテレビ局にとって大切なことは、地域住民が参加するローカルコンテンツの制作とローカル人材の育成である」と激励の言葉を発していたのが印象的であった。

最後に、グランプリを受賞した「ながさき原爆記録全集」の上映が、約1時間に行われ、視聴する機会に恵まれた。

コミュニティ部門の応募作品らしく、廃墟と化した長崎の街で生き延びた市民の証言をふんだんに取り入れて編集されていた。特に、16歳の時に背中一面にやけどを負いながら生き延び、日本原水爆被害者団体協議会の代表委員を務め、今年8月に亡くなられた谷口稜嘩さんの痛切な訴えが印象に残った。敢えて言えば、長崎の土地勘のない視聴者にも撮影された被爆地の分布と爆風の流れがもう少しよく分かるようなより丁寧な図解と解説が欲しかった。浦上天主堂と平和公園くらいは頭に入っていたが、山王神社、山里小学校、長崎医大、三菱長崎製鋼所など、映像が点々と出現するので混乱してしまった。

映像のみならず音声にももう少し

気を付けて原爆記録らしさを一貫して出すような配慮が必要と感じた。スタジオのアナウンサー、廃墟の現場の解説者、インタビューを受ける関係者の高低、強弱がばらばらで少々違和感が残った。

もう一点付け加えるとすれば、昨年のグランプリ総務大臣賞の栄誉に輝いたのは、「満州 富士見分村〜戦後70年の証言〜」(制作:長野・エルシービー)で、このところ戦後のドキュメンタリーに注目が集まってしまったように思われた。

また、昨年は「番組アワード」に協賛するソニー、パナソニック、共信コミュニケーションズ、JVCケンウッド、サテライトコミュニケーションズネットワークなどによる放送機器やシステムの展示会が行われて賑わったが、今年は、中止とのことで残念であった。

Naokira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

http://www.bizsat.jp

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下(地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.